



REDD+

Reducing Emission from Deforestation
and Forest Degradation-plus

平成26年度

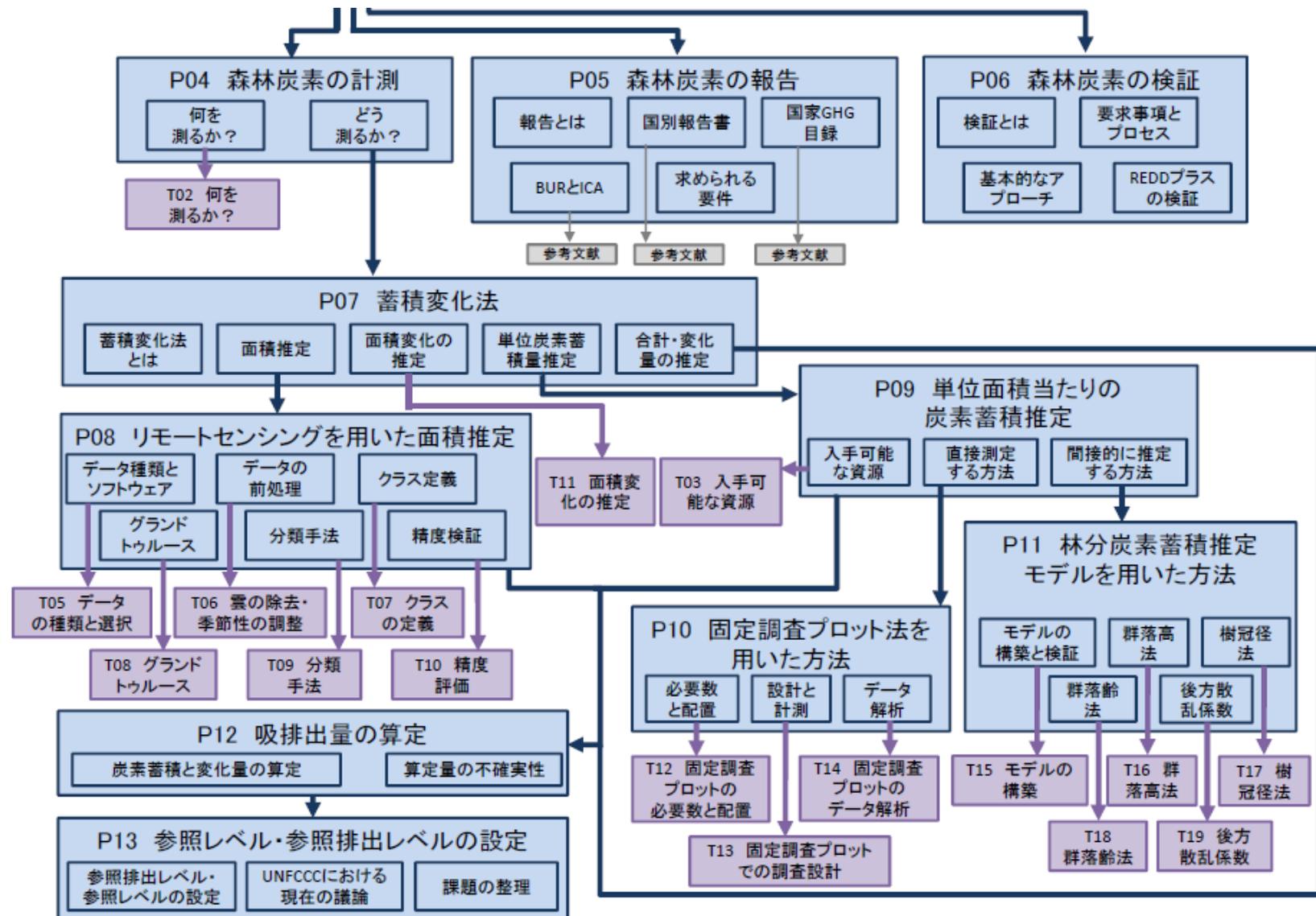
基礎講習

第 8 章

森林炭素量の把握

ベトナム国DienBien省における
バイオマス関連データの開発の事例

一般社団法人 日本森林技術協会
佐藤 顕信



REDD+CookBookより



炭素蓄積変化把握の流れ

各森林被覆タイプ

この時間の講習内容

森林被覆の時系列変化

単位面積あたりの炭素蓄積の把握

リモートセンシングによる
森林被覆の時系列変化
の把握

< 現地調査 >

- (a) 標準地調査 (プロット調査)
- (b) 破壊調査 (伐倒調査)

< 解析 >

単位面積あたりの
森林バイオマスの把握

単位面積あたりの炭素蓄積

炭素蓄積変化の把握



森林のバイオマスとは

- **バイオマス (Biomass) : 生物量**
 - ✓ 一般的に生物の乾燥重量で表される。
 - ✓ 森林の場合、樹木・植物の乾燥重量。

- **森林の炭素蓄積量 (Carbon stock) は、森林のバイオマスの約半分**
 - ✓ バイオマスに0.5を掛けると炭素量になる。
 - ✓ 植物体を構成するセルロースなどの化学組成による。

森林バイオマス把握のための現地調査

a. 標準地調査（プロット調査）

- 現地の森林の優占樹種、直径階分布、立木密度などを把握する。
- 標準地調査結果を基に破壊調査供試木の選定を行う。
 - ✓ 各直径階から満遍なく供試木を選定する。
 - ✓ 調査対象の森林のバイオマスに占める割合の高い樹種、出現頻度の高い樹種を供試木とする。

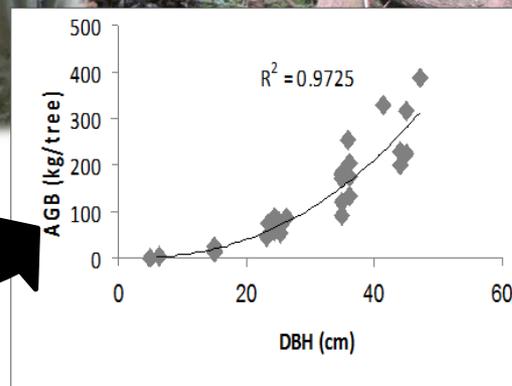
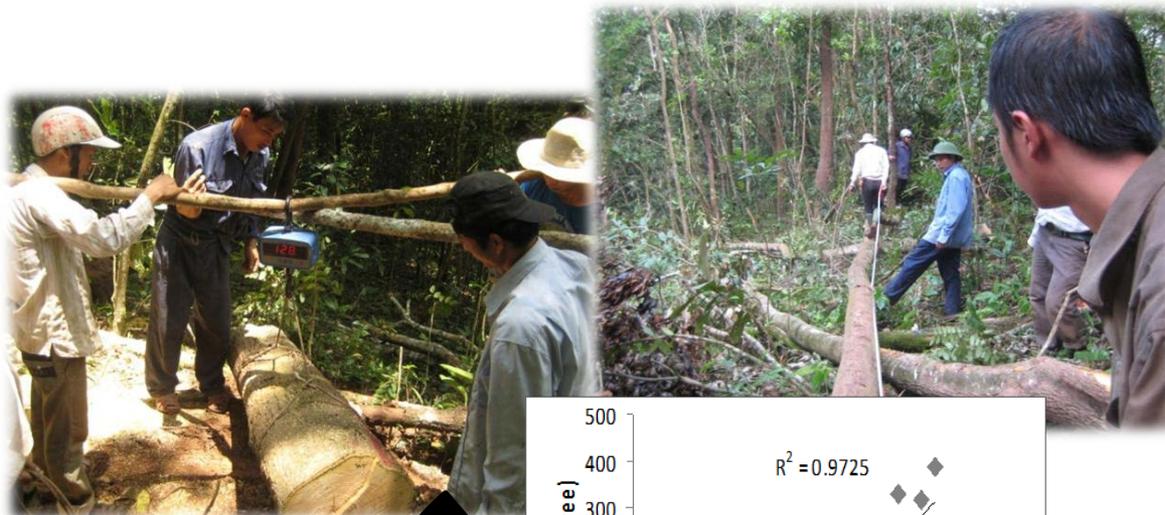
- プロット設定
 - ※ 方形、円形など適宜選択
- 樹種
- 胸高直径
- 樹高

Tree ID	Species	DBH	height
A491	Quercus sp	16.5	15.0
A00	□△sp	●●	▲▲
A800	Schima sp	31.2	28.5

※ 場合によっては、標準地調査が省略されることもある。

b. 破壊調査（伐倒調査）

- 供試木の生重量を計測
- 乾燥実験を経て供試木の乾燥重量を推定



アロメトリー式の開発

$$y = ax^b$$

アロメトリー式(相対成長式、allometric equation)

- 個体の一部のサイズから、別の部位のサイズを推定する式
 - ✓ 正確な測定が容易な部位（例：胸高直径）のサイズから、個体の樹高やバイオマスなど測定の困難な情報を推定できる。

パラメータ	式	精度	データ収集の容易さ
DBHのみ	$y = aDBH^b$		
DBH ² と樹高	$y = a(DBH^2 \cdot h)^b$		
材密度 DBH ² 樹高	$y = a(\rho \cdot DBH^2 \cdot h)^b$		

yはバイオマス；DBHは胸高直径；hは樹高；ρは容積重；a、bは係数



汎用式と樹種や地域に特化した推定式の特徴

➤ 地上部バイオマス（AGB : aboveground biomass）については推定式が多く提案・報告されている

- ✓ 世界中の樹木のデータを用いて森林タイプごとに考案された汎用の推定式（generic model, generic equation）や、個別の樹種や特定の地域に成立する森林のための推定式（species-specific model, local model）など様々なものが提案されており、それぞれに長所と短所がある。

項目	汎用式	樹種や地域に特化した式
式の基となるデータ	森林タイプ別に世界中から集められたデータ。	特定の地域や樹種から集められたデータ。
適用可能な地域	森林タイプが同じであれば適用可能。比較的広範囲な地域で適用できる。	式の基となるデータと同じ地域や樹種のみ適用可能。適用できる地域は限定的。
推定誤差	適用できる森林であれば、小～中程度の誤差が出る。	適用できる森林であれば、誤差は非常に小さい。そうでなければ誤差は大きい。
誤差が大きい場合の対処	個体サイズを反映する係数を増やすことで、ある程度の改善ができる（たとえば胸高直径と樹高を反映した式を使用する）。	調査対象の地域に不適な場合は使用しない。



各種アロメトリー式

➤ 汎用式 : generic model, generic equation

- ✓ 世界中の樹木のデータを用いて森林タイプごとに考案された推定式。
- ✓ Brown式やChave式がよく知られている。

Generic models	モデルタイプ	バイオマス推定式	推奨する気象条件など		
Brown式	Wet model	$AGB=21.297 - 6.953 \times DBH + 0.740 \times DBH^2$	4,000mm以上	乾季無し	
	Moist model	$AGB=\exp(-2.134 + 2.530 \times \ln(DBH))$	1,500-4,500mm	乾季無しor短い乾季	
	Dry model	$AGB=\exp(-1.996 + 2.32 \times \ln(DBH))$	1,500mm未満	数か月の乾季	
Chave式*	Wet model	$AGB=WD \times \exp(-1.302 + 1.980 \times \ln(DBH) + 0.207 \times (\ln(DBH))^2 - 0.0281 \times (\ln(DBH))^3)$	3,500mm以上	乾季無し	多雨低地林
	Moist model	$AGB=WD \times \exp(-1.562 + 2.148 \times \ln(DBH) + 0.207 \times (\ln(DBH))^2 - 0.0281 \times (\ln(DBH))^3)$	1,500-3,500mm	5ヵ月未満	低地林
	Dry model	$AGB=WD \times \exp(-0.730 + 1.784 \times \ln(DBH) + 0.207 \times (\ln(DBH))^2 - 0.0281 \times (\ln(DBH))^3)$	1,500mm未満	5ヵ月以上	厳しい乾季がある
Kiyono式	Moist model	$Stem=2.69 \times ba^{1.29} \times WD^{1.35}$			
	Moist model	$Branch=0.217 \times ba^{1.26} \times WD^{1.48}$			
	Moist model	$Leaf=173 \times ba^{0.938}$			

*Chaveモデルは、このほかに独立変数としてDBH、H、WDを含む式もタイプごとに提案している。
 それぞれの単位: バイオマス(AGB、Stem、Branch、Leaf): kg/tree, WD: t/m³ (ただしKiyono式はkg/cm³), DBH: cm, ba: m², D2H: DBH²(cm) × H(m)

- AGB : 地上バイオマスAboveground biomass、DBH : 胸高直径Diameter at brest height、WD : 材密度Wood density (t/m³)
- WDの値は、IPCC(2003, 2006)やさまざまな研究論文の中で、種レベル、あるいは属レベルの値が示されている。
 - 種の同定が困難な場合は、熱帯ではアジア0.57、アメリカ0.60、アフリカ0.58といった基準値 (Brown, 1997)を使うことができる。



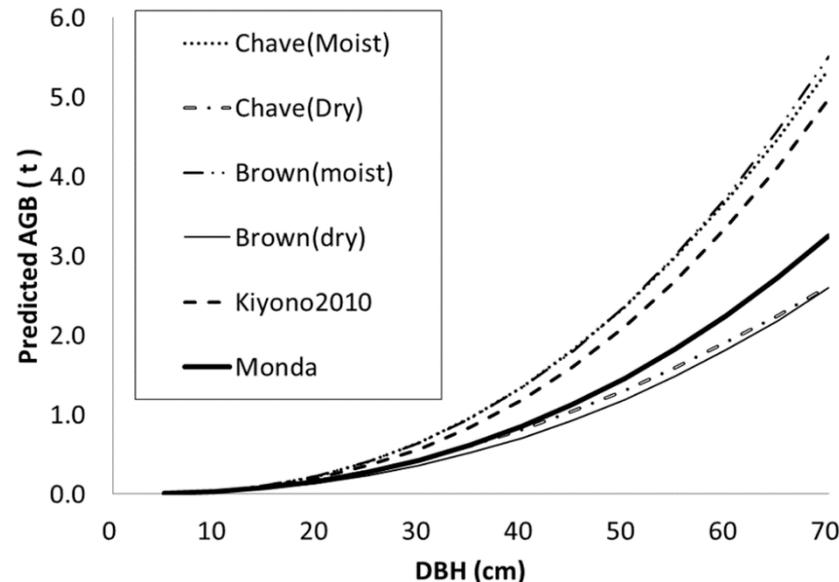
各種アロメトリー式

- 個別の樹種のための推定式 (species-specific model) および特定の地域に成立する森林のための推定式 (local model)。

Local models	モデルタイプ	バイオマス推定式	推奨する気象条件など(カッコ内はデータを取集した地域)
Yamakura式	推定式A	$AGB = \exp(-2.30 + 3.62 \times \ln(DBH))$	熱帯雨林(ボルネオ)
Chambers式	推定式B	$AGB = \exp(-2.010 + 2.55 \times \ln(DBH))$	(中央アマゾン)
Dojomo式	推定式C	$AGB = \exp(-2.05 + 2.33 \times \ln(DBH))$	熱帯低地林(アフリカ)
Hozumi式	推定式D	Stem = $0.072 \times (D^2 H)^{0.9326}$ Branch = $0.01334 \times (D^2 H)^{1.027}$ Leaf = $0.031 \times (D^2 H)^{0.7211}$	熱帯季節林の常緑林(カンボジア)
Monda式	推定式E	$AGB = 0.3510 \times DBH^{2.3855} \times WD^{1.7827}$	熱帯季節林の落葉林(インドシナ地域)
Kenzo式	推定式F	$AGB = 0.0829 \times DBH^{2.43}$	二次林(マレーシア・サラワク)
Ketterings式	推定式G	$AGB = \exp(-2.75 + 2.59 \times \ln(DBH))$	混交二次林(インドネシア・スマトラ)
Hashimoto式	推定式H	$AGB = \exp(-2.51 + 2.44 \times \ln(DBH))$	熱帯先駆種が優先する二次林(インドネシア・東カリマンタン)

アロメトリー式の選択

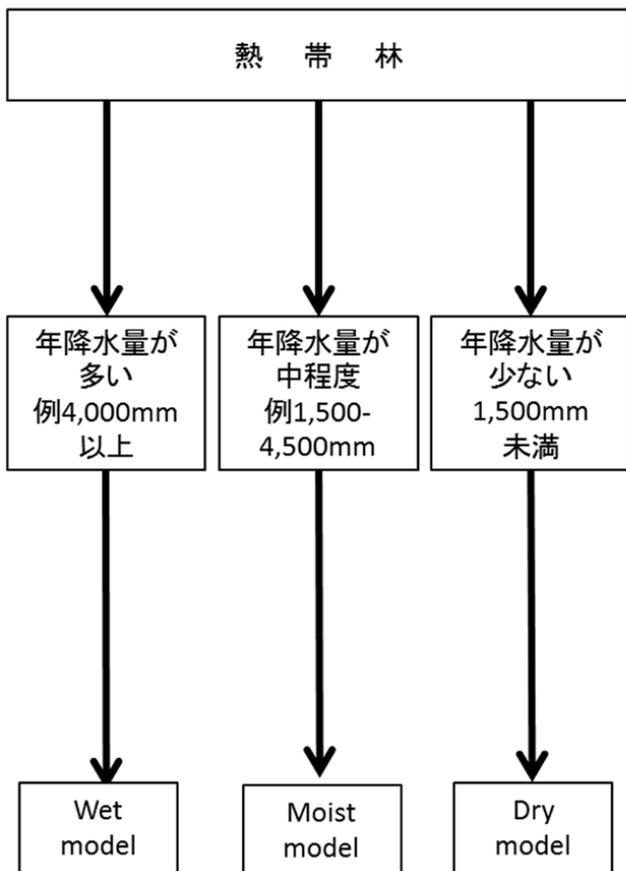
- アロメトリー式は、式によって推定結果が異なる。
 - ✓ アロメトリー式を作成するために用いられているデータがそれぞれ異なっている。
 - ✓ そのため、式の係数がそれぞれ異なっている。
- バイオマスを推定する地域の森林のタイプや気候に合わせて適切な式を選択する必要がある。



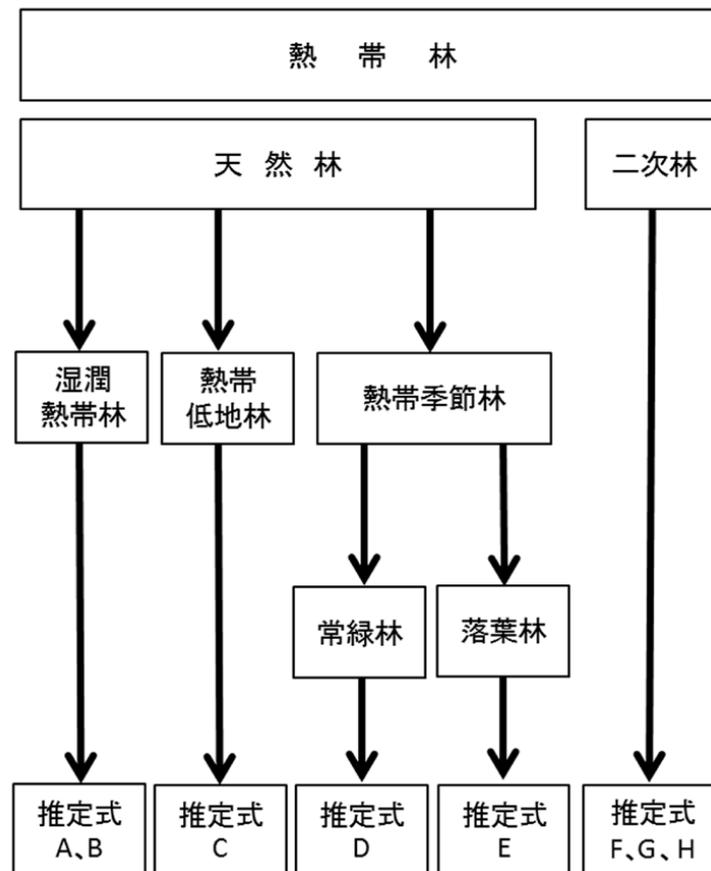
推定式による地上バイオマス (AGB: aboveground biomass) の推定値の違い

アロメトリ式の選択フロー

Generic models



Local models



REDD+CookBookより

単位面積あたりのバイオマス、炭素蓄積の算出

立木調査データ (例えば
0.1畝プロットの調査データ)

Tree ID	Species	DBH
A491	Quercus sp	16.5
AOO	□△sp	●●
A800	Schima sp	31.2

立木ごとに
バイオマス
を計算

その地域に適合した
アロメトリー式

汎用式 (Brown式Wet model) の計算例
 $AGB = 21.297 - 6.953 \times DBH + 0.740 \times DBH^2$

Tree ID	Species	DBH	AGB(kg)
A491	Quercus sp	16.5	108
AOO	□△sp	●●	△×△
A800	Schima sp	31.2	524.7

プロットごとに合計し、
ha当たりのバイオマス
に換算

仮に0.1畝あたりのバイオマスが **5 t**であった場合
ヘクタールあたりの地上バイオマスは **"50 t"**



炭素蓄積 = 50 x 0.5* = 25 t/ha

*0.5は炭素係数 (Carbon Fraction ; CF)

アロメトリー式の独自開発が必要なケース

- REDDプラス対象国・地域で、Tier2、3レベルで炭素蓄積の把握を目指しているが、その国・地域に適合する既存の式が無い場合。
 - ✓ Tier : Tier1~3の3段階。
 - ✓ 温室効果ガスの排出/吸収の分析のデータ要件が異なる。Tier1では要件が少なく、Tier2、3では要件が増える。
 - Tier1 ; バイオマス計算に関して汎用式・値を使用、など。
 - Tier2 ; 国・地域に特化した計算式の使用、インベントリによるデータ収集、など。
 - Tier3 ; 国・地域に特化した計算式の使用、インベントリによるデータ収集が繰り返されていること、など。
 - ✓ Tierごとにそれぞれ透明性、完全性、一貫性、比較可能性、正確性が求められる。

ベトナム国ディエンビエン省でのアロメトリー式開発

VN国のバイオマス計算式およびバイオマス調査の状況

バイオマス計算式に関して

- アロメトリー式
 - R-S ratio : 地下バイオマスを推定する係数
- 汎用式・汎用値
を使用 = Tier1
- 材積式（表）：樹種、人天、地域— 天然林は簡易な式のみ存在
 - 容積密度：300種のリストあり
 - バイオマス計算式の知見は、人工林では多いが、天然林では少ない

VN国では、国に特化したアロメトリー式が無く、森林炭素蓄積量の推定のために、より高いTierレベルで推定を行うための計算式や係数の開発が求められていた。このような背景の下、VN国のバイオマス調査を行った。

Dien Bien province Muong Nhe district



ディエンビエン省の概要

- ベトナム北西部、ラオス・中国と国境を接する。
- 省の面積9,563 km²。
- 森林率39%（うち約55%が森林計画上の保全林、約40%が生産林）。
- 省の91%が海拔500m～1,500m。
- 土地の54%が傾斜30%以上。
- 流域保全が重要な課題となっている。

出典

ベトナム農村社会における社会経済開発のための地場産業振興に係る能力向上プロジェクト (JICA)

http://www.taybac.net.vn/taybac/dienbien_detail_jp.html

北西部水源地域における持続可能な森林管理プロジェクト (JICA)

<http://www.jica.go.jp/project/vietnam/004/outline/index.html>





調査地

ディエンビエン省モンニエ郡、モンニエ自然保護区 (MuongNhe Nature Reserve ; MNNR)



MNNRの林相



林分の遠景



Rich forestの林内

- MNNRの総面積は169,962^{ヘクタール}（保護区内に耕作地も存在）。
- うち天然林の面積は82,200^{ヘクタール}（森林保護区の約48%）。
- 優占樹種はシイ、カシ、ヒメツバキなど常緑広葉樹（村落跡地にはBambooも生育）。
- 天然林は蓄積ごとにPoor forest (100m³/^{ヘクタール}未満)、Medium forest (100~200m³/^{ヘクタール})、Rich forest (200m³/^{ヘクタール}以上)に分けられている。



Bamboo

標準地調査（プロット調査）の内容

プロットをMNNRの森林の90箇所に設置。

- 森林図上で候補地点を選点定し、現地の林相を確認して決定
- プロットサイズは50m×50m
- 胸高直径5cm以上の立木を対象
- 樹種同定
- 胸高直径計測（地上高1.3mの部分の直径）
- 樹高計測

MNNR 管理事務所での調査地選定作業



- 奥山にある森林のプロット選定は慎重を期していた。
- GISも使用しているが現地では紙地図で選点。

標準地調査のプロット設定



- 現地でのプロット設定はオリエンテーリングコンパス、巻き尺などを使用。
- バーテックスなどの先進的な測定機器は、導入されていても数が少ないため、調査チームが持ち出せない場合もある。

標準地調査の立木調査



- 樹木の胸高位置（地上高1.3mの部分）の幹周囲長を測定して、集計時に直径に変換。
- 板根を持つ樹種のDBHを正確に測定するには脚立なども必要。
- 樹高はクリノメーターなどを用いた方法で測定。
（日本人スタッフが滞在した期間はバーテックスを使用。）



調査実施上の問題点 1

－ 地理的要因、アクセス －

- 車道から調査地まで最大 8 km離れている。
- 川を遡行するなど、到達に 2 時間程度要する。
- スタッフ（特に日本人技術者）の安全管理に留意。

その他

- 調査以前に、入林の許可を得ることに時間を要することがある。
 - ✓ Forest Protection Department ; FPD、Department of Forestの地方事務所 ; SubDOF、さらに国境地帯のため軍との調整が必要であった。
- 紛争などで退去勧告が出ることも念頭に置いた準備が必要。
 - ✓ カウンター機関に調査を任せることも必要となる。
 - ✓ 信頼できる機関をカウンターパートにできるか。（ベトナムでは、Forest Science Institute of Vietnam ; FSIVをCPとすることができた。）

調査実施上の問題点2

－ 調査地選定、立木調査 －

調査地選定

- GISはあっても最終的には紙地図での調査地選定作業となった。
- 日本側が調査地選定しても諸事情で実際には行けない場合もある。
 - ✓ 前のスライドの地理的要因による調査実施上の問題点と関連している。

立木調査

- MNNRでの調査は50×50mの正方形プロットだったが、林相次第でプロット形状やサイズを変更する余地はある。
- 調査に高精度を期すならば、日本からの機材持ち込みが不可欠。

破壊調査（伐倒調査）の内容

標準地調査を行った林分で破壊調査を実施。

- 標準地調査結果に基づき、供試木とする樹種を決定。
 - 各胸高直径階から満遍なく供試木を選定。
 - 供試木の伐倒および抜根
 - 各器官の生重量測定
 - 各器官のサブサンプル採取
- ※破壊調査では、重機の使用を前提としているが、MNNRの調査地では重機の使用が困難であった（林道等が未整備）。そのため、現地の住民を雇い、根の掘り出しなどの重作業を行う必要があった。

供試木の選定

- 供試木30本を選定：優占樹種3種×10本
 - ✓ Dẻ : *Castanopsis indica* (Roxb.) A. DC.
 - ✓ Chẹo Tía : *Engelhardtia roxburghiana* (Lindl. ex Wall.) Iljinsk.
 - ✓ Vôi Thuốc : *Schima wallichii* (DC.) Korth.

- 標準地調査結果に基づき、3樹種を決定。
 - ✓ MNNRの林分材積のうち、60%以上が上記3種で占められていた（*Castanopsis* : 37%、*Engelhardtia*:13%、*Schima*:11%）。

- 各胸高直径階から満遍なく供試木を選定。

根の掘り出し



- 供試木は、樹冠の範囲の根を掘り出したうえ、ロープをかけて引き倒した。（急峻な地形のため重機を搬入できなかった。）
- 地中に残った根については、可能な限り掘り出した。
- 掘り出せない根は切断面の直径を計測し、完全に掘り出した根の直径と重量の回帰式から生重量を推定した。

供試木を倒した後の作業



樹幹長の測定と切断位置決定



各器官の切断（写真は樹幹と根）

各器官の生重量測定

- 器官（根、幹、枝、葉）に分別し、器官別の生重量を測定。



樹幹



根

各器官の生重量測定



葉と枝の分別作業（花や果実がある場合は、それも分別）



枝の生重量測定

樹幹のサブサンプル採取

- 各器官から乾燥実験用のサブサンプルを採取。
- サブサンプルの生重量を測定。



幹のサブサンプルの採取



幹のサブサンプルの



枝および葉のサブサンプル採取



枝のサブサンプル



葉のサブサンプル（花や果実がある場合は、そのサブサンプルも採取）



根のサブサンプル採取





供試木データの取りまとめシート

ID	Scientific name of sample trees	Sample tree size		Sample plot No.	Coordinates of sample trees		Fresh biomass of sample trees by tree organs (kg)				
		DBH (cm)	H (m)		Latitude	Longitude	Stem	Branch	Leave	Root	Total
1	<i>Schima wallichii</i>	6.5	8.4	58	230639	2469436	18.6	10.1	2.5	6.5	37.7
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11	<i>Castanopsis indica</i>										
12											
15											
13											
14											
16											
17											
18											
19											
20											
21	<i>Engelhardtia roxburghiana</i>										
22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											



調査実施上の問題点3

－ 伐倒調査 －

- **調査地の立地条件次第で調査の難易度が大きく変わる。**
 - ✓ 重機の搬入が困難な場合、根の掘り起こしなど重作業も、人力に頼らざるを得ない。
 - ✓ 調査地が車道から遠いとサンプルの運び出しが困難。
 - ✓ 調査員の安全確保が難しくなる。

- **重量計測の精度を期すならば日本からの測定機材の持ち込みが必要。**
 - ✓ 調査対象地域の森林の樹木サイズにもよるが、秤量1000kg、2000kgの秤を準備する必要がある。（現地入手が困難。）

乾燥実験（ラボでの作業）

サンプルは順次FSIV (Forest Science Institute of Vietnam) 本部に送り、ラボで乾燥処理、乾燥重量測定

- ラボでサンプル生重量を再測定。
- 105℃で72～168時間乾燥。
- サンプルの乾燥重量を測定。



サブサンプルの乾燥処理と乾燥重量測定



調査実施上の問題点 4 - ラボ作業 -

- サブサンプルの乾燥処理ができる施設を持っている研究所や大学が、調査を行う国にあるか、事前に確認が必要。

解析：供試木の全乾燥重量計算

➤ 全乾燥重量の計算 $TDW = TFW * \frac{SDW}{SFW}$

- ✓ TDW：各器官の全乾燥重量
- ✓ TFW：各器官の全生重量
- ✓ SDW：各器官のサブサンプル乾燥重量
- ✓ SFW：各器官のサブサンプル生重量

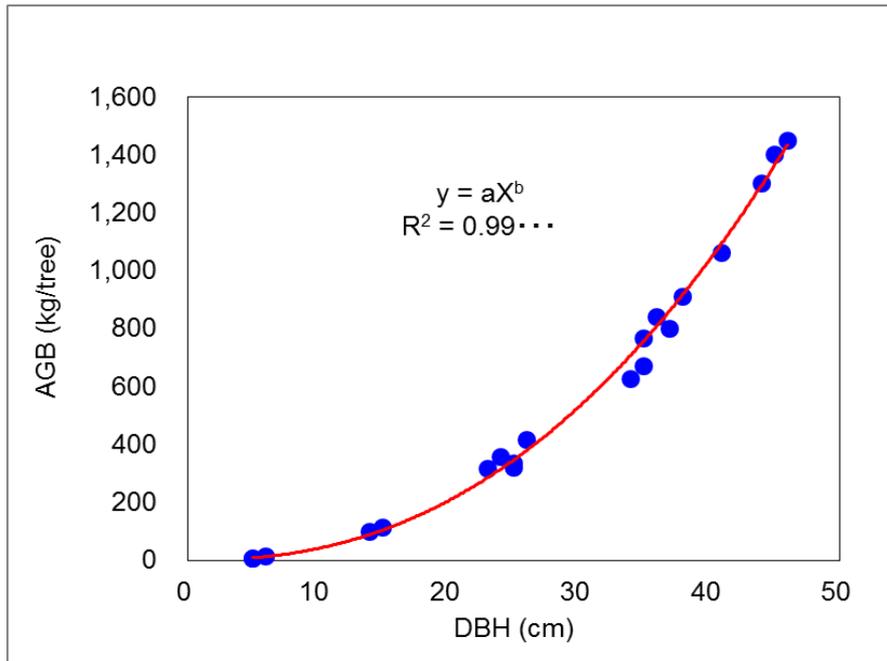
全乾燥重量 = バイオマス

供試木乾燥重量の取りまとめシート

ID	Name of sample trees	Sample tree size		Dried mass by tree organs (kg/tree)				
		DBH (cm)	H (m)	Stem	Branch	Leave	Root	Total
1	<i>Schima wallichii</i>	6.5	8.4	9.01	4.67	0.88	2.81	17.37
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11	<i>Castanopsis indica</i>							
12								
15								
13								
14								
16								
17								
18								
19								
20								
21	<i>Engelhardtia roxburghiana</i>							
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								



アロメトリー式（器官別回帰式）作成



➤ 供試木の胸高直径と各器官のバイオマスの関係を散布図に表す

- ✓ x軸：胸高直径、y軸：地上部バイオマス
- ✓ DBH：胸高直径
- ✓ AGB：地上部バイオマス

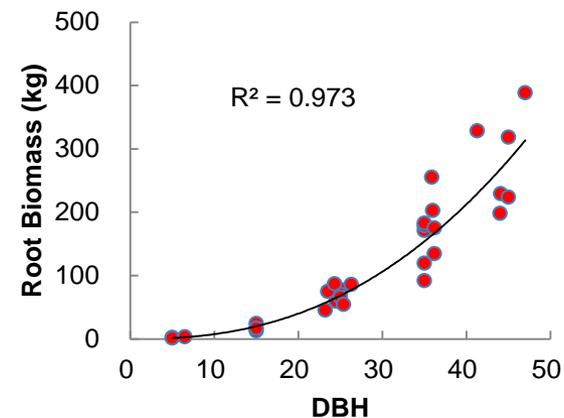
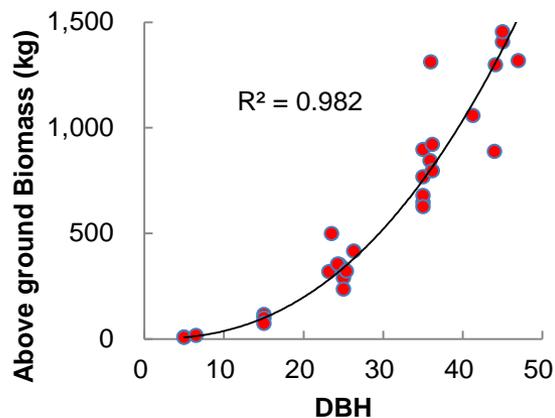
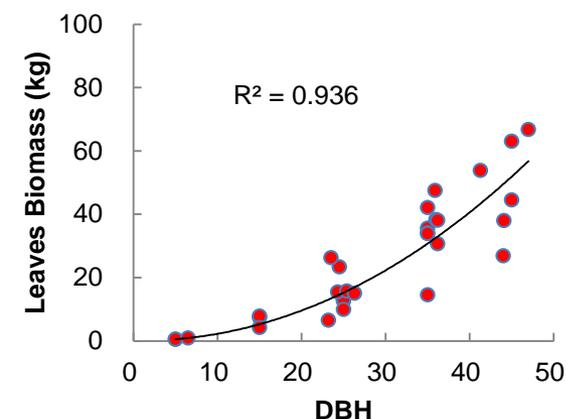
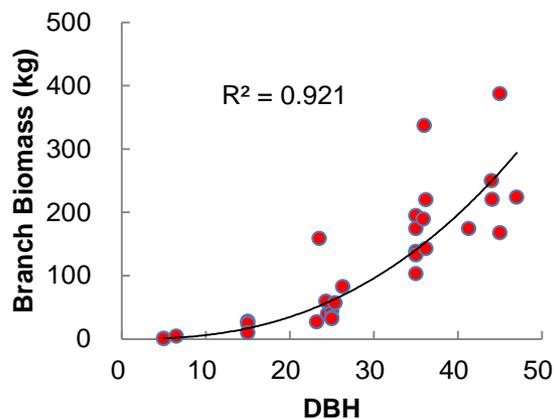
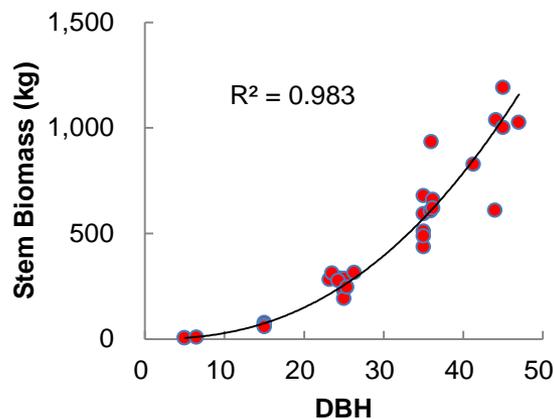
➤ 散布図の近似線の式 $y = a X^b$

対数を取った場合 $\text{Ln}(y) = a \text{Ln}(X) + b$

などの回帰式が得られる。

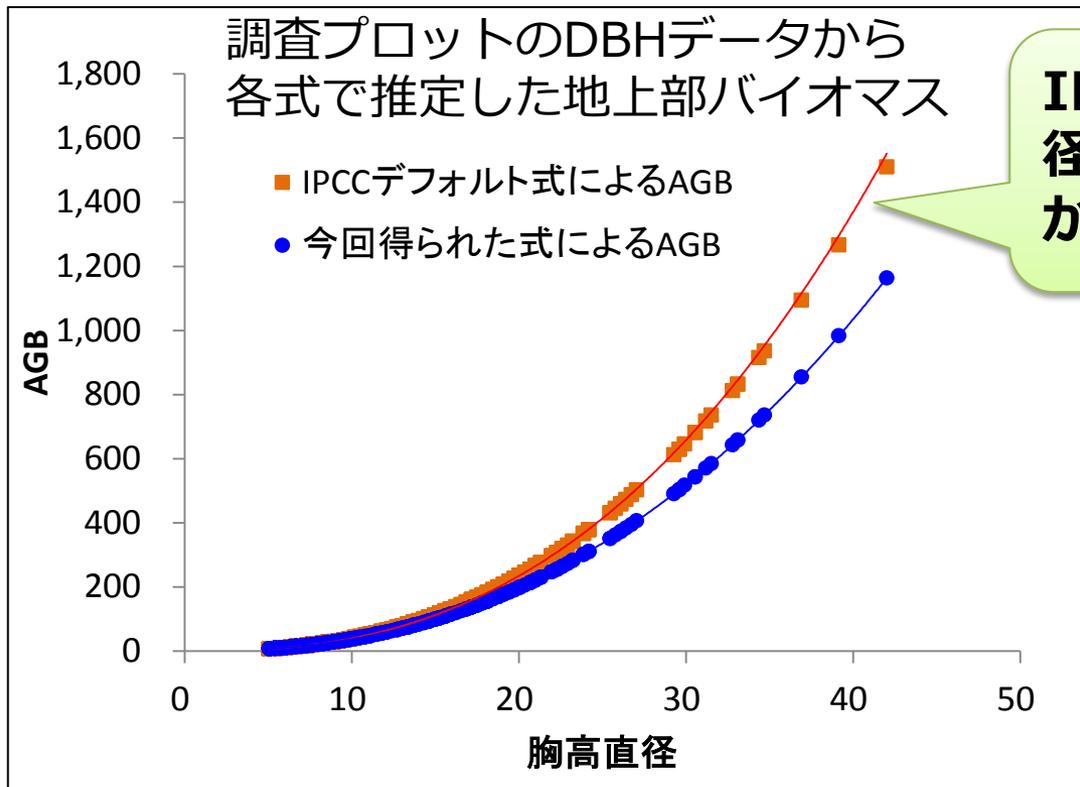
- ✓ y ：各器官のバイオマス
- ✓ X ：変数（DBH、DBH²、D²H など）
- ✓ a 、 b ：係数

器官別の胸高直径とバイオマスの関係



これらの散布図から、器官別にアロメトリー式を作成することができる。

IPCCの汎用式と開発したアロメトリー式による地上部バイオマス (AGB) の比較



IPCCの汎用式は、大径木ほどバイオマスが過大推定される。

IPCCの式 : $Y = \exp[-2.289 + 2.649 * \ln(\text{DBH}) - 0.021 * (\ln(\text{DBH}))^2]$

Tropical moist hardwoods

Y= aboveground dry matter, kg (tree)⁻¹, DBH =diameter at breast height (cm), ln = natural logarithm, exp = "e raised to the power of"

毎木調査データからバイオマスを試算

- プロットごとに全立木の地上部バイオマス、地下部バイオマスを計算・集計し、ヘクタールあたりバイオマスに換算。
- さらに炭素量を算出。

プロットごとの計算結果の集計例（90箇所の標準地のデータから計算）

Plot No.	Wood volume m ³ /ha	Forest Type	AGB t/ha	BGB t/ha	Carbon in AGB	Carbon in BGB
・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・
22	195	medium	169	32	84.5	16.0
23	123	medium	132	25	66.0	12.5
24	225	rich	200	40	100.0	20.0
25	205	rich	182	35	91.0	17.5
26	37	poor	54	11	27.0	5.5
27	391	rich	351	70	175.5	35.0
28	53	poor	65	13	32.5	6.5
29	29	poor	46	9	23.0	4.5
・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・

MNNRにおける各森林タイプの炭素貯留量

森林タイプ	プロット数	蓄積 m ³ /ha	AGB t/ha	BGB t/ha	地上炭素 貯留量 t/ha	地下炭素 貯留量 t/ha	炭素貯留量 (地上+地下) t/ha
Poor	29	75.5	92.1	18.1	46.0	9.1	55.1
Medium	31	156.0	164.1	32.5	82.0	16.3	98.3
Rich	30	254.6	205.1	39.6	102.5	19.8	122.3

※各森林タイプの平均値を示した



ベトナム国ディエンビエン省でのバイオマス調査のまとめ

- ベトナム国の北部地域に特化したアロメトリー式を破壊調査によって得ることができた。
- 得られたアロメトリー式は、IPCCの汎用式よりもコンサバティブな（＝低めに見積もられた）バイオマス推定が出来る。
 - ✓ バイオマスの過大推定を回避できる。
- REDDプラス対象国・地域の周辺国・周辺地域に、似たような森林タイプがあるならば、開発したアロメトリー式を適用できる可能性がある。
 - ✓ 例えば、ベトナム国の他省およびインドシナ半島の常緑広葉樹林など。（ただし、林分構成など精査し、優占樹種などが一致するか判断する必要がある。）
 - ✓ REDDプラス対象国・地域内であっても全く異なる森林タイプについては、別にアロメトリー式を開発する必要がある
 - 例）二次林、バンブー、乾性フタバガキなど、それぞれの森林タイプに合わせたアロメトリー式が必要。

バイオマス調査実施上の留意点

- 調査を行う森林は、国有林？ コンセッション会社の社有林？
 - ✓ 許可申請先。
 - ✓ 伐採許可が得られるまでの期間も見越した調査計画が必要。
 - ✓ 森林所有者がコンセッション会社の場合、樹木の買取交渉が必要。
 - ✓ ベトナムでは国有林で、なおかつ国立の研究機関との共同作業であったため、調査許可の取得はスムーズであった。
- 重機、トラック、大型チェーンソーの手配
 - ✓ 重機の搬入が可能な場所で調査を行えるのであれば、重機を使うに越したことはない。
 - ✓ 林業会社と協力出来れば、重機などの確保がし易い。
 - ✓ 重機レンタル料の交渉が必要。
 - ✓ チェーンソーは、地元住民が持っていることもある。
- 調査の作業のための人員の確保
 - ✓ 重機やチェーンソーのオペレーター、トラックの運転手など。
 - ✓ 地元民ワーカーの雇用。（人数が多ければ手分けして効率的な作業ができる。）
 - ✓ 各オペレーター、ワーカーへの賃金。（専門の技術者は賃金も高くなる。）
- 地域コミュニティへの配慮
 - ✓ コミュニティーの長老、リーダーへ調査の説明すること。
 - ✓ コミュニティーの禁忌に触れないか確認すること。

など